

日弁連意見書は問題

「宗教の自由」シンポ開く

東京

宗教に対する基本的な理解を深め、宗教の自由を確立するための活動を展開している国際宗教自由連合日本委員会（委員長・入江通雅青山学院大学名誉教授）は二十七日、東京・市ヶ谷の私学会館（アルカディア市ヶ谷）でシンポジウムを開いた。今回のテーマは「宗教の自由と日本社会」で、日弁連・意見書をどう読むか、日本における宗教のあり方を求めて。

講演者として阿部美哉・スト、またコメンテーターとして秋山昭八弁護士、武藤英英・報恩閣住職の各氏が出席した他、会場には宗教界、学界、法曹界、マスコミ界などから多数の参加者があった。



阿部学長は講演の中で、日本弁護士連合会（小堀樹会長）が今年三月に発表した「意見書」（反社会的な宗教的活動にかかわる消費者被害等の救済の指針）と題したものについて、「なによりはあった方がいいもの」としながらも、①詐欺そのものまで宗教として認識しているの宗教にとって重要な「敵身」に対する認識が不足している②マインドコントロール論には根拠がないのに反カルト派の主張だけが表に出ている③点などの問題を挙げた。

「宗教の自由」シンポジウムで講演する阿部美哉・国際学院大学学長（東京・市ヶ谷の私学会館）

その上で、近代国家ではマイノリティー（少数派）のもつ文化への寛容性が重要であると強調した。

また、マリンス教授は、日本の宗教史をひもといて、明治憲法は信教の自由の保障をうたったが、実際には神社参拝を強要したり、キリスト教や新宗教は特高警察の監視下に置かれていた事実を指摘した。そして、今日は「オウム真理教事件を契機にして政界や世論は宗教界に冷たい目を向けており、これは戦前よりも厳しい状況にある」と分析した。さらに、「意見書」には疑問をもつが、宗教界は自己改革のきっかけとすべきであるとした。

講演の最後に立った室生氏は、「意見書」にはマイノリティーへ軽視の姿勢があること、宗教トランプは宗教への理解なくして解決できない点を弁護士が分かるようにしなかつたことなどを、やや語気を強めて批判。続けて、戦後の価値

観の問題に傾けて、今日の社会にはすべてが貨幣価値に換算される「唯貨主義」（カネ第一主義）がはびこり、精神、心、命までカネで換算される悪い風潮があると述べた。

さらに「意見書」は危険だ」と断言、「立法化は避けるべき」と記している意見書の作成にかかわった弁護士の一人がテレビに出演して「カルト宗教の行動を規制する法律が必要だ」と発言したこと、政界や行政当局に宗教を統制しようとする動きがあることなどに、重大な懸念を表明した。

三人の講演を受けてコメンテーターは述べた秋山弁護士は、「法律は最低限の規範。市民はそれより高い道徳規範で日常生活を送っている。宗教規範はさらに高いもの。だから法律は、最高の規範には遠慮しなければならぬ」と説明、弁護士の間には宗教への無理解があることを吐露した。

また、武藤住職は、宗教法人を隠れみのにした脱税目的の法人が多く存在する事実を公表、既成宗教はえりを正す必要があると強調。その一方、「意見書」の存在そのものを知らない僧侶が少なくないことも認めた。

十二指腸かいようで手術

高松宮妃殿下

宮内庁は二十七日、骨折手術や十二指腸かいようの治療などで東京都中央区の聖路加国際病院に入院されている高松宮妃喜久子さま（六十）が二十六日夜、三度目の出血をし、手術を受けられたと発表した。出血は止まったものの、病院側は厳重な術後管理を行っているとしている。

喜久子さまは十六日、内視鏡検査で十二指腸かいようによる出血が見つかり、内視鏡で患部を焼いて止血する治療を受けられた。十七日に再び出血したため、十八日も同様の治療を受けたと発表された。出血は止まらなかったが、肺炎も併発していることが分かった。

二十六日に容体がやや改善したことから、人工呼吸器を外したところ、三度目の出血があった。内視鏡による治療では止血できないため、開腹手術して動脈を縛って止血したという。

局長はまた、米軍兵士が絡む事件や事故に関して「サミットの時期を控えて起きると、関係方面に大きな影響を与える。警察当局としても米軍との連携を密にして防止を図っていく」と述べた。

多度病院のインフルエンザ

MRSAと複合感染も

患者集団死亡で報告書

三重県桑名保健所

三重県多度町の精神病院「多度病院」（福井庫治院長）で、今年一月から三月にかけてインフルエンザがまん延し、入院患者十九人が死亡した問題で、同県桑名保健所は二十七日までに、死亡した患者の一部に

ついて、抗生物質が効かないメチリシン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）とインフルエンザの複合感染で「毒素性ショック症候群（TSS）」を発症し、死亡した可能性があるとする報告書をまとめた。近く厚生省に報告する。

にしては死者が多過ぎる②インフルエンザ感染後の経過が良好なのに容体が急変した例が見られる③三十四十歳代の比較的若い年齢層の患者がおり、男性に死亡者が多い④などの特徴があるため、同報告書は「死因の一部として、ある程度

宮内庁は二十七日、京都御所を見学する外国人に英語で情報を提供する端末の設置などの新規事業を盛り込んだ来年度予算の概算要求をまとめた。

皇室費と宮内庁運営のための宮内庁費を合わせた概算要求の総額は今年度予算額に比べ〇・六％増の百八十九億九千六百万円。

新規事業は京都御所の情報端末のほか、皇居内の堀に架かる西橋（にしはねはし）の改修工事などの経費を計上。各省庁に割り当てられた特別枠のうち宮内